

公園

県営バナナ公園

バナナ公園が位置するバナナ岳は、石垣市街地の北約4kmに位置し、南北に概ね標高230mの稜線をもった、およそ400haにわたる森林丘陵地帯である。本公園は、石垣島観光を充実させると同時に、市民を対象とした陸域レクリエーション効果と、自然教育効果を発揮する機能を有している。また、亜熱帯の特色ある自然植生を保全するため、積極的に熱帯の花木を植栽するなど、自然環境をできる限り保存・維持管理することで、日本最南端の花と緑があふれる都市公園となっている。

- 事業箇所 石垣市
- 事業期間 昭和53年度～令和6年度
- 公園面積(供用面積) 292.1ha(208.54ha)

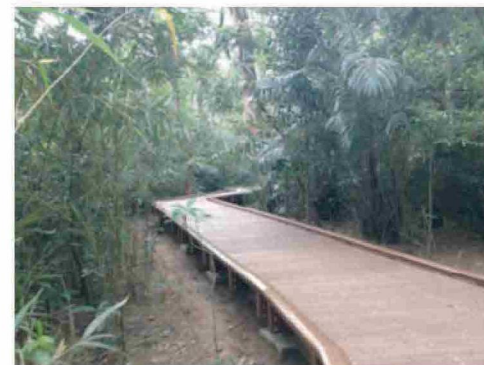
※隣接して生活環境保全林帯区域107haがあり、399.1haの森林丘陵地帯をなす。

- 主要施設 広場、園路、橋梁、駐車場、便益施設
- 都市計画決定 (当初)昭和53年度 (変更)昭和63年度
- 今後の事業展開

近年は主に遊具、園路および公園内施設の整備を行っている。バナナ公園は石垣市地域防災計画における避難場所に指定されているため、今後防災機能の向上を図る。また、老朽化した施設の再整備に取り組んでいく予定である。



Eゾーン ふれあい子供広場



Aゾーン 散策路



聖紫花の橋



サイン 展望台

河川

亜熱帯地域に属する本県は、梅雨時には降雨が集中することや台風が常襲する地域であるため、水害や高潮災害を受けやすい自然条件下にある。このため、これまでの河川整備は効率的な災害対策として、河川護岸の設置を中心に行われてきたが、現在、治水・利水との統合を図りつつ、自然環境や人と川との関わりに配慮した整備に取り組んでいるところである。

八重山管内における2級河川は、石垣島5河川、西表島4河川、与那国島1河川、計10河川が指定されており、延長59.5kmである。河川改修事業は、国庫補助事業として昭和53年度から石垣新川川、昭和58年度から名蔵川、県単独事業として昭和56年度から底原川、昭和63年度から宮良川の整備を実施している。平成30年度に石垣新川川の最終区間の整備工事が完了し、現在は、田原川の整備を進めている。



田原川

■ ダム

現在、石垣市民の水がめとして使用されている真栄里ダムは、沖縄県で一番高い山・於茂登岳(標高526m)を源とする二級河川宮良川の上流に建設された多目的ダムである。

真栄里ダムは、総事業費46億円を投じて総貯水量230万 m^3 、有効貯水容量210万 m^3 の均一型アースダムとして国直轄事業で昭和59年10月に完成し、昭和59年12月24日から沖縄県において管理している(管理費用：土木45.7%、農林54.3%)。

真栄里ダムでは、有効貯水容量210万 m^3 のうち、標高E L 41.50mからE L 38.00mの間の洪水調節容量80万 m^3 を利用して洪水調節を行い、ダム地点下流での水害の防除を行う。標高E L 38.00mからE L 29.00mの間の利水容量130万 m^3 のうち10万 m^3 を利用して石垣市の上水道へ一日最大12,200 m^3 、独立行政法人国際農林水産業研究センターへ一日最大1,640 m^3 の既得用水を補給するほか、宮良川の流水の正常な機能の維持を図り、残りの120万 m^3 を利用してかんがい用水の補給を行っている。

真栄里ダム堰堤改良事業

真栄里ダムは、昭和59年の完成から35年以上経過しており、施設の老朽化が顕著である。土木施設においては、経年劣化によるコンクリート剥落・鉄筋露出等が多数あり、電気設備及び機械設備においては、耐用年数を過ぎている機器が多数あるため、ダムの安定的な運用に支障をきたす恐れがある。

本事業において、機器等も含めた大規模改修工事を実施することで、ダムの安定的な運用を図るものである。



真栄里ダム

■ 港湾

八重山地域には、重要港湾1港、地方港湾11港(うち避難港1港)が設置されている。

本圏域には、自然環境に優れた12の有人島があり、各島々を結ぶ交通路の殆どが海路に依存しているため、港湾の果たす役割は大きいものとなっている。

こうした島々の住民生活の向上と地域の振興を図るため、重要港湾である石垣港を国と石垣市で整備し、地方港湾については県で整備を進めている。

白浜港港湾改修事業

白浜港は西表島の西側に位置する地方生活港湾であり、地元の小型船が利用しているほか、船浮港への定期船や建設資材積卸しを行う作業船等が利用している。当港は、小型船が利用する物揚場と船揚場が不足しているほか、台風時の物揚場の静穏度が確保されておらず、係留避泊が困難なことから、平成24年度より物揚場、船揚場及び泊地の整備を進めている。



白浜港[西表島]

祖納港港湾改修事業

祖納港は与那国島にある唯一の港湾施設である。石垣～与那国には定期フェリーが運航しているが、当港の港内静穏度が悪く定期フェリーは久部良漁港を利用している。本事業は平成24年度から港内の静穏性を高め、フェリーが通年運航できるよう整備を進めている。



祖納港[与那国島]

空 港

本県は多くの島嶼から構成されており、東西約1,000km、南北約400kmの広い海域に有人離島が点在している。このような地理特性から、空港は離島の民生安定と地域振興に重要な役割を果たしている。

現在、八重山地域には、新石垣空港、与那国空港及び波照間空港の地方管理空港(旧第三種空港)が設置されており、それぞれの島の空の玄関として、八重山の基幹産業の一つである観光産業を支える重要な施設となっている。特にその中でも新石垣空港は、那覇、宮古、与那国間の県内路線の他、東京、大阪、名古屋、福岡の本土路線や台湾から不定期チャーターの国際路線運航があるなど、八重山圏域の基幹空港である。

空港名	空港面積	滑走路	着陸帯	エプロン
新石垣空港	1,419,615㎡	2,000m×45m LA-12	2,120m×300m C級	86,308㎡
与那国空港	582,411㎡	2,000m×45m LA-3	2,120m×150m C級	10,200㎡
波照間空港	92,487㎡	800m×45m LA-5	920m×60m H級	2,000㎡



新石垣空港



与那国空港



波照間空港

年別新石垣空港乗降客数

